

12月4日(水)

16:00-17:00

オーラル・ヒストリーを通じて沖縄現代史を学ぶ

オンライン開催



沖縄大学地域研究所「沖縄における地域史とオーラル・ヒストリーの方法」共同研究班は、現在、助成の2年目に入ります。昨年度は、研究プロジェクトの問題意義、ジャーナリズムとオーラル・ヒストリーの検証に至った経緯をお伝えしました。今回は、これまでの聞き取りからわかったこと、また、研究史の検証のなかからの気づきなどについてお話ができればと思っています。

【プログラム】 16:00～16:05 挨拶 報告の趣旨・概要
 16:05～16:25 報告1
 16:25～16:45 報告2
 16:45～17:00 質疑応答

【2024年度 沖縄大学地域研究所共同研究班 若林班】

研究名：沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法－戦後史研究の実践から問い直す－

対象地域：沖縄・琉球諸島

研究内容：沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とは言い難い。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。

司会・報告者

若林千代 わかばやしちよ(沖縄大学 経法商学部 経法商学科)

専門は沖縄現代史／東アジア国際関係史。津田塾大学学芸学部国際関係学科在学中、単位交換派遣学生として沖縄大学で学ぶ。博士(国際関係学)。著書として『ジープと砂塵－米軍占領下沖縄の政治社会と東アジア冷戦, 1945-1950』(有志舎、2015年)他。

報告者

謝花直美 じゃはな なおみ(琉球大学／沖縄大学 地域研究所 特別研究員)

専門は沖縄戦後史、沖縄戦研究。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。著書として『沈黙の記憶 11948年－砲弾の島 伊江島米軍LCT 爆発事件』(インパクト出版会、2022年)、『戦後沖縄と復興の「異音」－米軍支配下 復興を求めた人びとの生存と希望－』(有志舎、2021年)他。

◆◆◆「地域研究公開講座」について◆◆◆

★視聴無料★ 12/2(月)までに要事前申込

※講座終了後、アンケートの回答にご協力ください。申込受付メールで回答フォームURLをお送りします。

申込先【Googleフォーム QRコード】

※本学HPの「イベント」からもお申込みいただけます。
 氏名・連絡先・所属等、必要事項を入力の上送信してください。
 お申し込みされた方には、12/3(火)までに、申込受付メールを送信します。メールが届かない場合は、12/3日(火)14時までに沖縄大学地域研究所までお問い合わせください。



問い合わせ先：沖縄大学 地域研究所
 住所：沖縄県那覇市市場405番地
 沖縄大学アネックス共創館2階
 窓口：平日8:30～17:15(12:00～13:00 閉室)
 Tel:098-832-5599
 Mail:chiken-staff@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学地域研究所には、本学教員及び特別研究員、その他の研究協力者で構成された研究班があります。それぞれ、地域の役に立ちたいという想いで地域研究に取り組んでいます。
 本研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的とし、全ての研究班が地域研究公開講座を実施しています。研究班活動の内容や対象とする課題等について、皆様に分かりやすくご紹介させていただきます。今年度は全9班の地域研究公開講座を開催します。(裏面参照)

2024年度 沖縄大学地域研究公開講座 開催予定一覧 (10月29日現在)

※次回以降の講座につきましては、詳細が決まりましたら本学HPよりご案内いたします。



	開催予定日	研究代表者名 (所属学科)	研究名	研究内容要約
済	1 7月10日(水) 13:00~14:20	王志英 (国際コミュニケーション学科)	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。
済	2 8月26日(月) 16:00~17:30	系数 哲 (経法商学科)	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしなが、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。
済	3 9月13日(金) 17:00~18:30	西 章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていく、〈学び舎〉として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、「戦争と平和」「人類と人権」「非暴力と自由」「差別と不寛容」「本当の意味でのSDGs」などについてのフォーラムやワークショップを企画運営し、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。
	4 11月20日(水) 15:00~16:30	盛口 満 (こども文化学科)	離島における教育連携	地理的に不利な離島地域と大学機能(大学生による出前授業と地域交流)を連携することにより、「離島における教育機会」の課題を整理し、同時に大学機関で今後どのように地域と連携できるか模索する。
	5 12月4日(水) 16:00~17:00	若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法—戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とは言えない。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。
	6 1月 (調整中)	富山 侑美 (経法商学科)	沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理—より多くの命を救うために—	移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国1位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。
		宮良 恵美 (管理栄養学科)	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	沖縄で長年愛用されているピイパーズについて、伝統的な栽培・利用方法を学術的・体系的に総括し、最高な芳香を引き出す標準的な製法の確立と生理機能の評価に取り組み、地域団体と協力して、その良さを活かした商品を開発する。
	8 2月 (調整中)	豊川 明佳 (経法商学科)	沖縄の地域産業を牽引する企業におけるブランド志向の実践とアクションリサーチ	本研究は、ブランド・アイデンティティの「共創」を中心に据えたコーポレート・ブランディングの実践を行う沖縄県内の企業を対象とし、市場志向からブランド志向への変革と実践へ向けての一連のプロセスを考察する。
		宮城 能彦 (こども文化学科)	琉球・沖縄共同体の源流と変遷の研究	現在に直接つながる琉球・沖縄の「共同体」は農耕が始まった12世紀から15世紀のグスク時代に始まると言われている。その起源と変遷(特に近世と近代)を考古学と歴史学と社会学の視点から明らかにする。